

横の連携を深め、 いぐさの伝統と産地を守りたい

インスタイル株式会社

代表取締役 石橋直樹さん

住所：福岡県大川市大字小保107-1
TEL：094413219920
FAX：094413219894
HP：<http://in-style.jp>

今月の夢追い人は、インスタイル（株）の石橋直樹さんにお話を伺いました。

インスタイルは創業5年目を迎えた、いぐさ製品を扱っている会社です。

「主に、熊本県で生産されたいぐさを福岡県で染め、織りを行い、いろんな製品に加工して世の中に出しています。いぐさと聞くと、一般的な畳表や花ごごの敷物を思い浮かべる方が多いと思いますが、現在では、クッションやラグ、マット、シーツ、枕など人の肌に触れる製品も多くなっています」

では、インスタイルの主营产品であるいぐさ製品はどのような工程で作られているので

しょうか。

「いぐさは、苗を12月に植え付けて、7月にかけて約8ヶ月で刈り取れるまでに成長します。その際、鮮度を保つため刈り取りは気温の低い早朝や夕方に行い、刈り取ったいぐさは、畳独特の色や香り、光沢を出すために、天然染土を使って泥染めをします。泥染めには、いぐさの表面をコーティングし、均一に乾燥させる働きもあります。泥染め後に乾燥させたいぐさは長さごとに選別され、一年かけて、農家が畳表に織り上げます。その後、染色したり、織り、加工と、細かく分業されていて、数多くの人が携わって、皆さんが使っておられる畳や花ごごが出来ています。ちな

みに日本製の花ごごとと言われる部分の90%は福岡県で作られているんです。なので、福岡県が日本一なんです。一方で生産者さんや織り手の方が60代や70代が中心になってしましました。また、花ごごだけでは90%、畳を含めると80%は海外製で、ものづくりとしては大変な状態ではあるんですが、その中でも国産のいぐさに特化して、今までの需要とは違ったものを見出すことを考えていますし、この産業を残すこと、続けることが私の役割だと考えています」

また石橋さんがこの業界に携わるきっかけなどもお伺いしました。

「福岡県には、300年以上





インソール



カップスリーブ

の歴史があり、福岡県知事指定特産民工芸品にも指定されている掛川を祖母が手織りをしていて、福岡県の無形文化

財保持者でした。父も織りの工場を経営している家庭で育ちました。子どもの頃は、家でいぐさを栽培していた時もあった。朝、学校に行く前に『今日は早く帰って来て、手伝え』なんてことも言われていました。友達と遊びに行ったりしてましたよね。いぐさに馴染みはありましたが、この業界で働くつもりはなかったです。高校を卒業して、レストランのウェイターやコック、車の販売、不動産関係の仕事をして、ふと次は何をやるのかなって思ったときに、いぐさを扱っている会社を勧められたのがきっかけです。その会社を訪問すると、次の年の商品デザインを計画している珍しい時期でした。こういう事もやっているんだとスツと入ってしまったのが一番でしたね。それから営業や生産体制の見直しなどを行い、グッドデザイン賞を受賞した商品にも携わりました。気づけば30年この業界にどっぷり入って、5年前に独立をしました

日本人の生活に根づいているいぐさ。そのいぐさの特長についてもお伺いしました。「いぐさっていろんな機能を持っているんです。知れば知るほど改めて持っている力が凄いと感じています。例えば、寝ごさを真夏の暑いコンクリートの上に1枚敷けば座れる断熱性を持っています。逆に、氷の上に1枚敷けば、冷たさを感じることなく座れるんです。その性能を利用して、いぐさのカップスリーブを製品化しました。紙コップに熱いものを注いでもいぐさのカバーがあるだけで、熱も冷めにくいし、氷は水で溶けにくい特長がある商品です。また、いぐさには抗菌能力があり、黄色ブドウ球菌とか、菌の繁殖を抑える効果を利用して、コロナ禍では欠かせなかったマスクのケースも取扱っています。消臭機能や、調湿効果もあるため、靴のインソールといった商品も販売しています。どれも一回の使い捨てではなく、繰り返し使える事がいぐさを使った製品の特長だと言えます。その特長を生かしながら、今まではなかった商品を生み出すことで、今までとは違った市場開拓や業態に力を入れて販売することも経営者として心掛けています」

現在、日本で積極的に取り組まれている「SDGs」にもいぐさは通ずるところがあるとのこと。

「いぐさは植物なので、栽培生産することで、田が天然のダムのような働きで、洪水を防いだり、雨水を緩やかに地下へ浸透させて土砂崩れを防いだりと、私たちは様々な恩恵を受けています。また、水田特有の環境が多様な生き物を育んだり、田んぼの景色が私たちの心を和ませたり、大気中のCO2や有毒ガスを吸着する効果もあると言われています。そんなサステナブルな素材を使った商品づくりに取り組んでいます。より地球環境への負荷が低く、持続性の高いいぐさを使った商品の開発、活用を推進しています。

8カ月で刈り取ったいぐさが織り上げて何年も使える生活の道具として生まれ変わる。当社でのSDGs活動をよくよく考えてみたら、皆さんに良く買ってもらって、繰り返しよく使ってもらって、なんじゃないかなって思っています。この業界で働く人の維持にも貢献が出来ますし、昔からある良い文化であり、身近なものを生活の道具にする事はSDGsの究極だと思っと思っています。製品になってみると、工業製品のように思われがちですが、もともと植物ですからね。いぐさには現代に合った可能性がある

「いぐさの産地を残すために、いろんな業態にもチャレンジをして、市場を開拓すること。同業種と争うことなく、市場を広げられるような事や物を生み出していきたいと考えています。そうすることによって、より多くの人たちがこの業界に残れるようにしていきたいですね。また、いろんな展示会に家具のメーカーさんと出展をしています。いぐさがきっかけではなくても、家具の話を知りたいのであれば、その業者を紹介するという情報の受け皿として今後活動ができたらと思っています。実際に、テーブルを作りたいとか椅子を作りたいなどの問い合わせを受け、業者を紹介するなどの、大川としての横の連携の大事さを感じています。業種は違っても取引先が、せっかく大川に來られたなら他の業者も訪問できるような体制を普段からできると、なお良いと思います。横の連携を大事に、業種や産地を超えた連携を今後はもっと強めていきたいですね」